

第1学年 生活科の実践

1 単元名 きらきらかぞく 大きくせん

2 単元目標

家族のことや家族の仕事に関心を持ち、家族の一員としての自分にできることを、進んでやろうとすることが出来る。そして、家族との関わりを通して、家族が支え合って生活していることに気づく。

《単元の評価規準》

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・判断	身近な環境や自分についての気づき
家族の生活に関心を持ち、進んで家族と関わり、生活を振り返ったり、実際に自分にできることを探して、やってみたりしようとしている。	家庭の仕事や自分にできることについて考え、実際に取り組むことができる。また、取り組んだ様子や感想について、表現することができる。	族の愛情や温かさ、また自分は家族の中で支えられていることに気づくとともに、自分の役割にも気づいている。

3 ひびき合う子ども達を目指すための指導の工夫

○単元と指導

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや、自分でできることなどについて考え、自分の役割を果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」にあたる。

家族の根底を流れるものは、家族愛＝家族は強いきずなで結ばれているということであろう。何か予期しない事態が生じた際には、みんなが駆け寄り助け合える関係といえる。今、子ども達には、家族の愛に支えられていることは見えないとしても、日々その芽を伸ばしていけるように家族が見守ってくれている。親の背を見て育つ感覚は、薄れてきている昨今、自分の思いを伝えられる家族関係、居心地が良く憩いの場がある家庭は、日々の生活の積み重ねによって家族愛というものが生まれているといえる。今回、生活科の学習で「きらきらかぞく大きくせん」を実施するにあたって、家族のきずながより太くなれるようなきっかけ作りになればと思っている。

家庭の仕事調べや家庭で仕事を実践するという活動が多くある本単元は、家庭の理解と協力が無くては成立しないものとする。学年便りで学習の目指すところを家庭に伝えると同時に、子ども達の活動への言葉かけをお願いしていく。子ども達の活動をほめることが次への活動を起こさせ、仕事を継続する楽しさや難しさ・辛さを体験を通して、味わわせたい。子どもにとって身近な助言者は、家族一人ひとりといえる。

単元の導入では、家族の紹介カードを工夫し、飛び出すカードのように画用紙に顔をかいた物を貼り、得意なことコーナーを設けて、自慢できる家族のことを考えることから学習を始めた。もちろん家族の一員である自分の自慢できることも書き、家庭生活を振り返る機会となればと思う。自慢できる家族と一緒にしていることや家族にやってもらっていること、すでに家族のためにやっていることから家の中の仕事に目を向けて、仕事調べへと学習を展開していきたい。

家の仕事調べでは、お母さんに視点を当て、たくさん仕事をかかえ家族のために休むことなく取り組んでいる大変さに気づいた子ども達は、自分にできることはないか考えることだろう。本学級の子も達は、普段から手伝いをやっている子が多く、家の仕事内容に目が向いていると思われる。しかし、自分の仕事として継続して取り組んでいる子は、少ない。今回の学習を通して、できそうな仕事に挑戦したり、より上手にできるように名人を目指して取り組んだりしながら、長く続けられる仕事のきっかけ作りとなればと思っている。子ども達は、家の仕事を家族と一緒に取り組む中で、家族の温かさを肌で体験したり、役割を果たすことを味わったりしながら「家族っていいな」という思いを実感することだろう。学習のまとめとしては、家族に感謝の気持ちを伝える方法を考え、仕事の継続はもちろんのこと、家族での団らんの時間を過ごすことや疲れをいやすための取り組みにも目を向けて、支え合っているきらきらかぞくの冊子作りをしたいと考えている。

本単元での子どもの切実な思いは、家でのごとにチャレンジする際に、家族のために自分で取り組む仕事を決め、計画を立てることと、実践が上手にできるかということであろう。少しでも家族のためになった満足感と仕事をやり終えた達成感が、さらなる次への活動を生み出すことと思われる。

子ども達が、家庭で実践したことを伝え合う活動を通して、自分にもできそうな仕事を考えたり、より上手にできるポイントを教え合ったりする場面でのひびき合が考えられる。友だちと関わり合うことで「発見」「共感」を得て、さらに自分の思いや願いを重ね、表現しながら高まっていくことをひびき合いととらえたい。そして、家庭生活を振り返り、自分でする仕事を決めて、自分で実践計画を練って、実践するという主体的な活動になるように支援していきたい。

子どもの見取りは、発言・振り返りカードを活用して評価や指導に活かし、次時への子どもの思いをくみ取り学習展開を組み立てていきたい。家庭での仕事を実践して感じたことを学習カードに書いたり、友だちに伝えたりする活動をとおして素直に表現できる子に育ってほしいと願っている。

4 単元指導計画 (全14時間扱い)

時	学 習 活 動	主な支援・留意点 (評価)
---	---------	---------------

<p>① ○家族の紹介をしよう。 ② ・家族の自慢を絵カードに表そう。</p> <p>③ ・家族の自慢を伝え合おう。</p>		<p>・家族で出かけて楽しかったことや家族みんなでお祝いしてもらったことなどの日記を紹介して、「家族っていいな」という思いを抱かせる。</p> <p>〈関〉家族のことを振り返って、家族一人ひとりの自慢できることを探してカードに書こうとしている。</p> <p>〈思・表〉家族の自慢できることを絵と文で表す。 (カードの工夫)</p> <p>〈関〉家族の自慢を、進んで伝えようとしている。 (ペア・全体交流)</p>
<p>④ ○ぼく・わたしは「きらきらレンジャー」 ⑤ ・家族の家の仕事について振り返ろう。</p> <p>⑥ ・家族がしている家の仕事を調べよう。【家庭】</p> <p>⑦ ・調べたことを伝え合おう。</p> <p>⑧ ・家庭生活を支えている家族のことについて考えよう。</p> <p>⑨ ・自分でもできそうな仕事を見つけ、チャレンジする計画を立てよう。</p> <p>⑩ ・家でチャレンジしたことを発表しよう。 《本時》</p>		<p>〈関〉自分の生活を振り返って、家族とともにしていることや家族にやってもらっていることをワークシートに書こうとしている。</p> <p>・子ども達が家で仕事を調べてくることを、便りで家庭に知らせ、今後の家庭生活を見直すことのきっかけ作りとしての協力をはかっておく</p> <p>〈関〉家の仕事について調べてきたことを、進んで発表している。 (めいたんてい〇〇〇)</p> <p>〈気〉家族がしてくれている仕事や自分がしている仕事について考え、家族は支え合っていることに気づくことができる。</p> <p>〈思・表〉より上手にできる仕事の計画やチャレンジできそうな仕事の計画を立てることができる。 (いつ・時間帯・内容・回数など見通しを持って)</p> <p>・家族にほめてもらったことや困ったことについて話し合わせ、より家族がきらきら輝くためにできることを考えさせたい。</p>
<p>⑩ ○「きらきらかぞく 大きくせん」 ⑪ ・家族がきらきら輝く計画作りをしよう。</p> <p>⑫ ・「きらきらかぞく大きくせん」を ⑬ 実施しよう。(1週間)【家庭】</p> <p>⑭ ・チャレンジしたことを伝え合おう。</p> <p>⑮ ・きらきら家族に感謝の気持ちを伝えよう。 ⑯ (メッセージカードを書こう)</p>		<p>〈思・表〉自分がやっている仕事の名人をめざして、アドバイスをもらったり、お手伝いの仕事を自分の役割にしたり考えることができる。</p> <p>・きらきらレンジャーが挑戦する期間を1週間設けて、家庭の協力を得て、実践させる。</p> <p>〈気〉自分が家族に愛されていることに気づき、感謝の気持ちを持って、メッセージを贈ることができる。</p>

5 本時について (9 / 14)

(1) 本時目標

「〇〇〇〇レンジャー」が、家でチャレンジした仕事について伝え合い、家族がもっと喜んでくれるためにできることを考えることができる。

(2) 本時展開

学 習 活 動	指導上の支援・留意点 (評価)
<p>1 〇〇〇〇レンジャーがチャレンジした仕事について、伝えよう。</p> <p>・皿洗いをして、汚れを落とすことが難しかった。</p> <p>・洗濯物をたたんで、「上手だよ。」と、ほめられた。</p> <p>・お風呂洗いをして、疲れたな。</p> <p>・弟の面倒は、やさしくあそべたよ。</p> <p>・家族が応援してくれて、嬉しかったよ。</p>	<p>・小グループで伝えた後に、全体での交流を設定する。</p> <p>・学習カードに書いてあることをもとに、自信を持って伝えられるように支援する。</p> <p>・家族にほめてもらったことや困ったことなどの感想も伝えるように助言する。</p>

- ・犬の散歩は、道路に出ないように気を付けたよ。
- ・上履き洗いは、思ったより簡単だったよ。
- ・パン作りは、おいしくできたよ。

- ・チャレンジしたことを動作を交えて伝えようと、聞き手により分かりやすく伝えることを指導する。

【関・意】友だちに自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞いたりして、話し合いに興味を持って臨んでいる。

2 自分がチャレンジしての振り返りや友だちの発表を聞いて、家族がもっと喜んでくれるためにはどうしたらよいか考えよう。

- ・できるだけ毎日、仕事をしたらいい。
- ・肩たたきをすると、お父さんは喜んでくれるよ。肩たたき券を作ろう。
- ・上履き洗いは、自分でできる仕事にしたらいい。
- ・自分でできることは、自分の仕事としてやるといいな。
- ・土、日曜日は、皿洗いの手伝いを必ずやることに決めたよ。
- ・お母さんの仕事は大変なので感謝の手紙を書きたいな。

- ・ほめてもらえて、嬉しかったことからもっと家族に喜んでもらえることはないか、投げかける。

- ・考えをまとめるために、書く時間を確保する。
- ・仕事見つけ名探偵での感想も振り返えさせる。
- ・隣の友だちと相談することも助言する。

【思・判】家族がもっと喜んでくれて、自分も嬉しくなり、きらきら家族になれる方法を考えることができる。

3 今日の学習の振り返りをしてカードに書く

- ・本時の振り返りをして、話し合っただけで考えたことを次時に結びつけない。

6 実践を終えて

○授業作りについて

子ども達との授業づくりについては、子どもの思考に沿った学習展開を試みてきた。単元の導入では、一番身近な家族のことを振り返り、家族の良いところ探しをしながら家族自慢に取り組んだ。家族全員の顔を描き自慢をカード書く子ども達は、嬉しそうにしていた。また、子どもも達は家族の自慢を伝える活動にも熱が入った。単元の終わりには、冊子にしてまとめようと考えた。次の活動として、家族の中でも家事全般を一手に引き受けているであろうお母さんに視点をあてて家の仕事調べへと学習を進めた。家の手伝いをしていいる子や決まった仕事として取り組んでいる子がいる中で、家の仕事の量の多さや大変さに気づいた子ども達は、自分にできることはないかと話し合った。そして、「きらきらレンジャー」として始まったのが、チャレンジパートⅠ計画である。まずは、自分にできそうな仕事に2日間挑戦し、その体験を話し合った。話し合う中で、「家族って何だろう」という意見から、みんなで考えてみることもできた。家族の一員として、家の仕事を手伝いとしてではなく、自分の仕事として役割を果たせるように「きらきらレンジャー」のチャレンジパートⅡが、1週間実践された。家族の励ましやと見守りのおかげで、子ども達は意欲的に活動することができた。

○本時展開について

本時の学習展開は、第一段階として、家でチャレンジした仕事を伝え合うことであった。子ども達は、実践してのことなので、意欲的に伝え合うことができた。実際に、手振り身振りで活動の仕方をその場でやってもらってもよかった。例えば、洗濯物をたたむ・掃除機の使い方・お米とぎなどの活動を見ながら、各家庭でのやり方の違いにも気づいたことと思う。第二段階として、“家族がもっと喜んでくれるためにできること”を教師側から投げかけた。今までの活動を振り返り、家族のことを思いながら、今後自分としては家の仕事をどうするとより良くなっていけるかを考えてほしかった。教師の気持ちが先走ってしまったが、単元を通して、家族のためにできることを自分なりに考え実践してほしいという単元目標に迫るための投げかけであった。子ども達は、まず自分のできることは自分でしていく。(上履き洗いは、やってもらうのではなく自分のやるべきこととして取り組むことなど)もっと違った仕事を増やしたい。仕事とは違うが、肩もみや足もみをして家族をいやしてあげたいという考えが出された。言葉には出てこなかったが、今の仕事を継続させ、自分の仕事にしていくという考えの子もいた。考える場を提供したことは、自分の考えを持って、次の活動を生み出していく学習展開には必要なステップだといえよう。もう少し考える時間を保証したり、友だちと相談したり(ペア交流)してもよかった。また、子ども達の考えを全体の場へ広げていくために、教師の意図的指名も必要であった。「家族のために」という思いが本時に至るまでもっと高まる必要があったと反省している。家族に支えられている自分という存在にいち早く気づかせれば、本時の課題が子どもの切実な課題となり得たのではないかな。

○成果と課題

単元を貫ける一本の串が必要である。その串とは、導入からゴールまで子どもの思考が次なる活動を生み出し、目標に向かって意欲的に活動することである。そのために教師側としては、単元の導入を工夫し、子どもが知的好奇心をもって、学習を展開させたり、友だちの考えを取り入れたりすることである。その手だてとして、学習カードを活用し、自分の思いを書く。自分の思いを伝えたり、友だちの考えを取り入れたりすることによって学び合う。そして、次への活動を見いだすことといえよう。

本単元を通して、家の仕事を実践したことを伝え合う場で、実際に自分のやり方を披露することで友だちのやり方との違いに気づき、自信を付けたりできそうな仕事に挑戦したりすることがひびき合いといえる。ひびき合いとは、学び合う場・教え合う場において、成立するものであり、お互いに高まっていく学習の場といえる。子ども達は、洗濯物のたたみ方でも、各家庭で様々なたたみ方があることを知った。その中でワンタッチで早くしかもきれいにたためる方法を伝えてもらうことができた。米の研ぎ方は、家で仕事を手につけていて、手際よく研ぐ手つきは主婦のように見えた。掃除機での掃除は、学校にもある物なのでやっでもらったが、意外と使ったことのない子がいて、実際にやりながら学ぶことが多かった。友だちから学んだことの一つとして、無料の肩たたき券や足もみ券を発行して、家族のために癒しの時間を作ってあげようと試みた子もいた。自分にできることにチャレンジした今回の学びが単元共に終了してしまわずに、自分の仕事として継続してほしいと願っている。

課題としては、子どもの思いを見取ることの難しさを常に感じての展開であった。毎時間につきの活動は何にしたいかを書くことはできなかったものの、家族のことを考えながらより活動が高まっていく子どもの姿を見逃さないように学習カードに教師のコメントを書き続けた。今回の単元は、家庭の協力なくしては成立しない単元なので、学年便りで学習のねらいを家庭に知らせる実践であった。今後も、子どもの思いを学習展開の軸にし、単元を通しての教師の思いを子ども達に投げかけていながら学習展開を組み立てていきたい。